

防災拠点庁舎整備についての市民説明会

- 日時：令和2年8月21日（金）午後7時～午後8時30分（終了予定時刻は午後8時30分）
- 会場：赤泊地区（赤泊総合文化会館）
- 参加者 38人
内訳 一般 38人（うち議員6人、市職員2人）

質問・意見		回答	
発言者	発言の要旨	回答者	回答の要旨
A氏	・現庁舎はどの程度の修繕で耐震化できるのか。	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁、天井、空調関係、給排水管である。 ・構造は耐震基準を満たしているが、トップラックにするためには屋根の鉄骨補強が必要である。 ・第2庁舎は老朽化しているので、機能と職員は現庁舎に移転する計画である。 ・今回、防災拠点庁舎を建設することで、現庁舎の改修についても合併特例債の対象となる。
B氏	・敷地面積28,523.77㎡は建設予定地のことか、全体面積のことか。	市回答	・面積は建設地以外の駐車場、その他施設の面積も含んでいる。
	・建設予定地の標高は13.5mほどと思うが、水害の心配があるのではないかと。 ・災害拠点といっても水害時にたどり着けないのではないかと。	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・水害等の関係については、ハザードマップによると本庁舎周辺は0.5～3mの浸水想定だが、ハザードマップのベースとなった浸水想定区域図では、付近の浸水想定は0.3～1mであり、建設の際には浸水を考慮し水害時にも機能低下しないような高上げによる安全対策を講じることとなる。
	・新庁舎は鉄筋コンクリート造ではなく木造とし、佐渡産木材を使っていたきたい。	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・木材については、3～4階建てとなると耐震上、鉄筋コンクリート造とする必要があるが、内部の内壁、下見等に佐渡産材を使うことは可能と思う。 ・詳細はまだ決まってないので、皆様の意見を持ち帰って参考としたい。
C氏	・昨今の異常気象を考えても、これまでの防災体制では追いつかないと思う。それも含めてぜひとも早く整備をお願いしたい。	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎は防災拠点ということで必要と考える。これは、防災で支所・行政サービスセンターと連絡しながら人の配置、物資伝達することを考えている。 ・前回の凍結災害時には自衛隊に来ていただいたが、自衛隊等も一体になって会議できるような機能を考えている。 ・避難については学校等の耐震構造のあるところが担い、どこで何が起きてどう対処するかについて対策を講じる場が防災拠点庁舎である。
	・佐渡一周線も地震が来ると津波が来る。専門家によれば、日本海側の津波の到達スピードは早いので、拠点である対策本部が機能しないとどうにもならないので、それも含めてお願いする。		
	・機能を集約する一方で、支所・行政サービスセンターのあり方が分からない。地域づくりのために支所・行政サービスセンターを強化するとの説明だったが、考えを教えていただきたい。	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数が減少する中、支所・行政サービスセンターの係を大きくしながら職員が横の連携を図って動ける組織にし、地域の人にも入ってもらいながら活性化したい。 ・地域の人と一緒に、本庁に縛られずに議論し、支所・行政サービスセンターの権限で独自に活用できるような予算をつけていきたい。 ・人員増は難しいが、地域おこし協力隊員、職員OB等をサポーターとして配置し、支所・行政サービスセンター長を中心に議論しながら、政策として予算を組むようなイメージである。 ・合併して17年。地域が元気になるためには支所・行政サービスセンターが元気になる必要があるため、本庁の係も含めて組織について議論している。地域の元気づくりをチャレンジする。
B氏	<ul style="list-style-type: none"> ・合併協定書には「支所を置く」と書いてあるのに支所を置いていない。国中の行政サービスセンターは本庁直轄だが、赤泊行政サービスセンターと小木行政サービスセンターは羽茂支所の傘下にある。 ・本庁に一極集中して何になるのか。行政サービスセンターを支所に格上げしていただきたい。 	市回答	・支所・行政サービスセンターのあり方については議論していきたい。

質問・意見		回答	
発言者	発言の要旨	回答者	回答の要旨
D氏	・空いた現庁舎の活用方法が明快になっていない。現庁舎の活用を真剣に考えたのか。	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人と考えなければならないが、現庁舎を25年維持することは困難である。 ・現在、大きな庁舎は、佐和田行政サービスセンター、羽茂支所、真野行政サービスセンター、本庁舎である。耐震化の整備はしているが、寿命が伸びるものではない。25年後にはこの4つの庁舎の維持も難しくなる。本庁舎も含め、国の支援があるうちに、60～70年維持できる防災庁舎を建て、将来負担を残さないようにしなければならない。 ・佐渡市は自主財源が1割であり、国からの交付税に依存して行政運営しているので、10～20年のサイクルで先のことを考える必要があるし、これは今後の大きな課題である。国の状況も含めて先のことはなかなか読めないので、10～20年の中で防災拠点を整備したいという考えである。
	・現庁舎を活かすなら、耐震基準は満たしているのに、外壁、天井の補強をすれば、自家発電もあるので問題ないのではないか。		
	・新庁舎の2階のフロアには危機管理スペースとあるが、それは災害前に用意する必要があるのか。災害が起きてから準備するものである。		
	・本庁から支所・行政サービスセンターに職員を派遣するとも言っているのに、何故2倍以上の規模にするのか。		
	・今後、人口はさらに減少するのに、何故規模を大きくするのか。なぜ本庁だけ広げ足を運ばせようとするのか。		
	・現庁舎のランニングコストは、4年前の説明では、20年間で10億円＝年間5千万円との説明であった。新庁舎のランニングコストはもっとかかるようになる。この負担が市民・国民にかかることになる。		
E氏	・30年後にこんな大きな建物が必要なのか。ネット社会の普及を考えれば、この計画の半分以下の規模で大丈夫である。私たちが考えるのではなく、若い人が考えるべき問題である。ネット、ライン等を使い、市民アンケートを実施し、若手の方の意見を収集していただきたい。		
	・年寄は若い人のことを考えなくてよいというのは違う。年寄が若い人のために今、頑張ってるということが大事である。		(意見として承る。)
F氏	<ul style="list-style-type: none"> ・通信機関、情報収集、指揮系統が重要である。どのような手段を考えているのか。 ・地区の集会場にWi-Fiを整備することも考えられるが、各家庭に子供がいればそのあたりに詳しいので、タブレット等による現場写真の収集等も可能なのではないか。 	市回答	・防災拠点庁舎を中心に、いかに現場と情報共有し、対策を講じ、人を配置するかが大事である。
		市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・現在気象庁、Jアラート、県砂防課、河川管理課から色々な情報があり一元集約しているが、できるだけ早く判断できる形としたい。 ・現地の状況については、スカイトランシーバーを支所・行政サービスセンターにも配置しているので、画像データの送受信により庁内で情報共有できるような形を考えたい。
		市回答	・学校ではタブレットを活用できるよう、Wi-Fiを整備するような話もしている。体育館が避難所になればWi-Fiの活用も可能になる。まだ具体的な計画はないが、地区ごとに考えていく必要がある。
		市回答	・全体的な情報は本部で吸い上げ、指示を出す形である。
G氏	・アンケートを実施してほしいという声もあるが、時間がかかると計画を取りやめる可能性もあるのか。	市回答	・意見をたくさん出してもらい、それをもとに議会と議論し、判断する。
	・佐渡産木材の使用など、よい意見を吸い上げて計画を進めていただきたい。反対意見で計画を取りやめていただきたいわけではない。		
H氏	<ul style="list-style-type: none"> ・この資料はどの部局が作成したのか。 ・建設予定地は合併協定書において「千種沖」となっているが、この計画にある建設予定地を千種沖と言えるのか。 	市回答	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は企画課が作成した。 ・千種沖については、当初計画当時、議会に特別委を作って議論したが、結論としては「道路までが千種沖」と記憶している。 ・合併協定書で「千種沖」となっていることは承知している。
	・金畑線の畑野から金井に向かう国府川を渡って下りたところの三角形の田んぼのところが建設予定地である。それが、どのような経緯でこのように変わったのか説明を求める。	市回答	・記録を確認する。